

特集

学生生活のあらゆる場面をバックアップ!

新生・金沢大学の 学生支援

- 学習支援 — 「自学自習」を形づくる
- 生活支援 — 健康な心と体を育む
- 就職支援 — 自分らしいキャリアをデザインする



中村信一 新学長に聴く 「新たな歴史の創造へ」

金沢大学第九代
林勇二郎学長の足跡

～果敢なる改革の8年半～

EVENT CALENDER イベントカレンダー

お気軽にご参加ください
★マークはサークルのイベント ()は開催場所です。
*マークは金沢大学サテライト・プラザで開催します。
特に明記がないものは、金沢大学角間キャンパスで開催します。

- 4月 April**
- 2 → 学生定期健康診断 (5/21まで各キャンパスの会場で行われます)
 - 7 → 入学宣誓式 (学域:金沢歌劇座 大学院:十全講堂)
 - 7~8/1 → 新入生展「金沢大学資料館へようこそ!」
 - 9 → 学類オリエンテーション
 - 10 → 附属学校入学・入園式 (幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校)
 - 12 → 市民大学院開講式*
 - 21 → 第59回金沢大学暁烏記念式・記念講演
 - 26 → ミニ講演「ボツリヌス菌物語」*
 - 29 → モダン・ジャズ・ソサエティ「JA-M-P!!2008」(市民芸術村)★
- 5月 May**
- 13 → ふれあいコンサート (附属病院)
 - 13 → ふれあい看護体験 (附属病院 対象:高校生以上)
 - 17 → ふれあい看護体験 (附属病院 対象:小中学生の親子)
 - 17 → ミニ講演「英文法なんて怖くない~英文法の面白さとつきあい方~」*
 - 24 → マンドリンクラブ第36回北陸学生合同演奏会 (富山県オーバードホール)★
 - 30 → 名誉教授称号記授与式 (ホテル日航金沢)
 - 31 → フィルハーモニー管弦楽団 第33回サマーコンサート (金沢市文化ホール)★
- 6月 June**
- 14 → 健寿会定期総会 (金沢スカイホテル)
 - 14 → 第54回幼児教育研究会 (附属幼稚園)
 - 21 → 金沢大学吹奏楽団第8回サマーコンサート (金沢市文化ホール)★
- 7月 July**
- 上旬 → 「いしかわ金沢学」夏コース (金沢市キコ山ふれあいの里研修館)
 - 12 → ミニ講演「直線と曲線—生活の中の幾何学—」*
- 8月 August**
- 7~8 → オープンキャンパス
 - 13~15 → 夏季一斉休業

金沢MOT塾

- 4/10より毎週木曜日開講「技術マネージメント基礎論」
 - 4/11より毎週金曜日開講「環境マネージメント論」
 - 4/15より毎週火曜日及び7/25(金)開講「技術経営論入門」
- [詳細情報] <http://www.t.kanazawa-u.ac.jp/mot/>

公開講座

- 4/12~5/4 「塑造による頭像の制作—美術へのいざない(XVII)—」
 - 5/10~5/17 「コードネームを使った簡単なピアノ伴奏講座 初級コース」
 - 5/17~6/14 「機械設計初級講座 ~知っておきたい設計のポイント~」
 - 6/11~7/12 「幼児教育の現場から考える現代の子育て学」
 - 6/14~7/12 「くらしの安全・安心と法」
 - 6/18~7/16 「続・海外ニュースにみる“お国事情”」
 - 6/27~9/26 「金沢学の薦め—金沢の公共遺産を知る—」
 - 6/28~12/20 「漢方の不思議を解く!—薬草園学入門講座—」
 - 6/29~7/13 「フレスコ画の制作—美術へのいざない(XVIII)—」
 - 7/5~7/12 「いろいろなオスティナートを楽しんでみよう!—音楽の楽しみ方いろいろ(VIII)—」
 - 7/11 「災害医療の基礎知識」
 - 7/18 「家庭でできる応急処置:間違った迷信から正しい医学的処置へ」
 - 7/30~8/4 「これでなっとく物理学」
 - 8/5~8/6 「高校生のための医学・発生物学への招待」
 - 8/18~8/28 「心と体の健康」
 - 8/25~8/26 「聴覚障害児を指導する教員のための手話講座」
- [詳細情報] http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/kaiho_c/kouza.htm

3学域・16学類 スタート!

歴史と伝統を継承し、金沢大学はこの春、新たな学びのかたちに生まれ変わりました。幅広い学問領域での「学びの可能性」を体験できる **オープンキャンパスは8/7~8に開催!** ぜひお越しください。
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/examination/>

金沢大学の最新情報は金沢大学ホームページからご覧いただけます。 <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

携帯サイトはこちら!



<http://daigakuic.jp/kanazawa-u/>



【表紙写真】
中央図書館(角間キャンパス)
吹き抜けから柔らかな光が差し込む中央図書館。天井には本学の前身、第四高等学校のシンボルである北斗星がデザインされています。蔵書数およそ125万冊。一般の方も利用できます。
モデルは本誌P.27に登場する「サイクリングクラブ」の皆さん。
【Acanthus-A14p~】
古代ギリシア・ローマに由来する植物で、和名を葉蘆(ハアザミ)という。金沢大学校章のモチーフになっていることから、キャンパス内施設に名称が用いられるなど、長年にわたり学生や教職員に親しまれている。

【編集後記】
今号には隠れたキーワードがあることにお気づきになりましたか?それは「コミュニケーション」。効果的に学習を進めるためにも、充実したキャンパスライフを送るためにも、そして就職してバリバリと働くためにも欠かすことのできない能力です。
新学長を迎え、新しくスタートを切った金沢大学。気持ちも新たに、これまで以上に学生や地域の方々とコミュニケーションを大切にしていきます。

中村信一 新学長に聴く 「新たな歴史の創造へ」



前学長の任期満了に伴い、2008年4月から、中村信一金沢大学長(前副学長)が誕生しました。高度化・複雑化した現代社会において、どのような教育が必要とされるのか。総合大学として培われ、受け継がれてきた英知を、次世代の研究へどのように進化させるのか。金沢で生まれ育ち、金沢大学で学んだ目が見据える未来を、中村新学長の人となりを変え、語っていただきました。

次代の文明を 見据えて

―3学域・16学類

大量生産・大量消費をパラダイムとする工業文明は、人々の生活を豊かに、便利に発展させました。しかし、環境問題や資源の枯渇、食糧危機など、世界規模の問題も噴出し、その転換を余儀なくされています。

高度化・複雑化した現代社会の課題。その解決のために、これまでの専門の枠組みを越えた幅広い知識と、その習得・発展を可能とする教育研究組織が求められています。

金沢大学では、その要求に応えるため、本年度より「3学域・16学類」をスタートさせました。学部の壁を取り払い、より大きな学問領域を整備することで、豊かな知の交流と新たな分野の誕生を促していきます。

これまで培われ、受け継がれてきた知性。それらを融合し、新しい学術・文化を生み出す。金沢大学は新たな時代に向けて生まれ変わったのです。



人間社会学域

理工学域

医薬保健学域



人生の目的を 見つける力 ―教養教育

社会が変化することにより、そこで育った学生も変わりました。高度経済成長に象徴される工業文明では、豊かな生活を送るためによい大学に入り、よい会社をめざすという、多くの人々にとつての「共通の目的」がありました。

しかし、生まれたときからモノや情報があふれる今の社会、この目的は失われ、生きる意味を持っていないまま、未来に迷いながら大学生となる若者もいます。

自分を知り、社会を知り、自ら生きる目的を見出すために、大学は学生に、自発的な思想・思索のきっかけを与えなければなりません。私は、在学中に豊かな「教養」を蓄えてもらうことで、それが叶うと考えています。

教養は学問の、そして人生の礎です。ペニシリン^{※1}を発見したフレミングのように「偶然」が科学を大きく進歩させることがあります。その偶然―すなわち人生

に訪れたチャンス―を見逃さずことなく、新たな成功へと導くのが、その人の持つ豊かな教養なのです。

金沢大学では、専門を学ぶ前に幅広い教養を身につける機会があります。興味を広く持ち、それらを吸収することで、高度化・複雑化した現代社会に対し、様々な視点からの思想・思索が可能となります。そして、多くの情報を取捨選択し、人生の目的を見つける力が養われていくのです。

分野を越えた 組織的 研究体制 ―総合大学としての研究支援

教養の涵養^{なまそ}をはじめとする大学の教育は、多くが研究者である教員によって行われます。素晴らしい研究者が本学に在籍すること。それは学生にとつても、地域にとつても大きな財産です。

研究は個人の興味から始まり、知的好奇心の赴くままに行われることが基本です。しかし、現代社会の課題を解決するためには、個人が蓄えた英知を結集する必要があります。 本学の強みは文・理・医薬系

の研究者が集う「総合大学」であること。これまでも、21世紀COEプログラム^{※2}に採択された脳^{※2}の研究のように、文・理・医薬系の研究者がチームを組んだ組織的な研究を行ってきました。研究分野を越えた新しい融合領域を創出するための専門組織「フロンティアサイエンス機構」も発足し、次代を担う研究者の育成と学際的研究の支援を組織的に展開しています。

3学域・16学類は、このような研究の組織化と、新領域の誕生を加速させます。次世代の研究と、それを進める研究者が行う教育。それらを持つて、本学はこれまで以上に地域に、そして社会に貢献する大学となるのです。



※1 ペニシリン

1929年、フレミング(英)により発見された世界初の抗生物質。細菌培養の際に誤って混入したアオカビが、その周辺の細菌の生育を阻止したことが、アオカビが持つ殺菌成分の確認につながった。

※2 脳の研究

発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成―文理架橋型研究による挑戦の第一ステージ

金大生時代の思い出 ーベストを尽くすということ

私は金沢に生まれ育ち、金沢大学で学んだ生粋の金沢人です。学生時代の記憶は忘れられないことばかりです。

私は医学部3年生のころ、医学部を辞めて法学部で学ぼうかと考えたことがあります。インターン制度に反対し、卒業試験をボイコットしたこともありましたが、その都度、恩師より温かい助けをいただき、今に至っています。

転学部を考えた際には当時の学生生活委員長の方に諭されました。ボイコットの際は卒業できぬものと覚悟しましたが、追試の取り計らいをしていただき、その後、猛勉強して卒業しました。

サークルは、最初にESS※に入り、英語が苦手だった話せず、一度は英会話をしてみ

たいと思っただけです。弁論大会前には、兼六園下の牧師さんに英語を習いに行ったこともありました。また友人に誘われ医学部の弓道部に入り、大会にも出場しました。結果はあまり芳しくありませんでしたが、友人たちと過ごした時間は楽しく、今でも鮮明に思い出すことができます。

これら大学時代の経験をおして私が得たことは「人生は定めていくものではない」「そのときに出来るベストを尽くす」という考えです。転学部を思いとどまり、細菌学を学んだことも、ボイコットを試みたことも、私のそのとき出来るベストでした。ベストを尽くしたなら、過去を悔やんではいけません。そして、多くの人の助けによって、現在の自分があるということに自覚せねばなりません。

※ESS
現在も本学で活動続けるサークル「金沢大学ESS（英語会話研究会）」



1.留学先のバージニア工科大学で細菌研究に取り組む 2.ロータリークラブでの講演 3.医学者の基本となる、顕微鏡の扱い方を指導 4.大学3年の医学展で的一幕 5.静けさの中、真剣な表情で的を狙う

金沢大学の新しい歴史 ーベスト10の大学へ

私が今描く大きな柱は「3学域・16学類の実質化」と我が国ベスト10大学を目指すことです。このベスト10とは、教育や研究、社会貢献など大学活動の様々な指標がベスト10に入り、その結果を皆さんが実感できる大学になるということです。

本学は、新しい学びのかたちを得て、金沢の地から次代の学術・文化を発信する大学となります。それは教職員や学生、そして金沢大学に関わるすべての方々によって成される新たな歴史の創造なのです。



中村 信一学長 プロフィール
NAKAMURA Shin-ichi

1944年生まれ。金沢市出身。1968年金沢大学医学部医学科卒業。1971年から1年間、アメリカ・バージニア州バージニア工科大学嫌気性菌研究所へ留学。1973年金沢大学大学院医学研究科修了。同年から助手として金沢大学医学部勤務。講師、助教授を経て1986年より同学部教授。1998年医学部長、2002年金沢大学副学長を歴任し、2008年から金沢大学長。
専門はクロストリジウム学、医学細菌学。医学博士。
1975年に「嫌気性孢子形成菌属の研究」で第32回中日文化賞、1998年に「ボツリヌス菌及び非ボツリヌス・クロストリジウム菌種等のボツリヌス毒素型の疫学研究」で第34回小島三郎記念文化賞を受賞。
趣味は家庭菜園。安納芋(サツマイモ)・能登大納言(小豆)などを栽培。

金沢大学の学生支援 まるわかり表

※2007年度以前に入学した学生には適用されないものも含まれます。

全学生に対する支援

アドバイス教員制度

学習・履修方法やコース選択などについて、一人ひとりに親身な指導、助言を行います。

[P14に関連記事](#)

定期健康診断

年に1回、保健管理センターで実施しています。健康診断証明書が無料で発行されます。

[P10に関連記事](#)

アカンサスポータル

金大生のためのポータルサイト。大学生活に必要な情報が網羅されています。ポートフォリオシステムでは、自分の学習履歴を確認して、次の履修計画を立てるうえで必要な情報を得ることができます。

[P9に関連記事](#)

キャリア形成プログラム

「キャリア教育」や「キャリア形成カリキュラム」によって、卒業後の進路を描く手助けをします。

[P12に関連記事](#)

学生支援GP

[P11に関連記事](#)

図書館

[P8に関連記事](#)

入学

学類

共通教育

教養を修得する「教養教育」、大学の学習に必要な基本知識と基本技能を修得する「基盤教育」、高校の勉強から大学の学習へ橋渡しをする「導入教育」があります。3学域全ての学生がともに学び、交流を深めます。

コース選択 (経過選択制)

人間社会学域と理工学域では、志望や適性に合わせて専門領域(コース)を決めます。的確なコース選択ができるよう、「コースガイダンス」を行います。

専門教育

自分が選んだ専門領域を深く追求していきます。その集大成として、論文、研究、試験などに取り組みます。

希望者に対する支援

入学料・授業料免除 [P14に関連記事](#)

アカンサス・スカラシップ [P14に関連記事](#)

なんでも相談室 [P9に関連記事](#)

専任カウンセラー [P10に関連記事](#)

ピア・サポート・ルーム [P11に関連記事](#)

角間ランチョンセミナー [P15に関連記事](#)

ノートテイク制度

派遣留学プログラム [P14に関連記事](#)

TOEIC/TOEFL
受験サポート [P15に関連記事](#)

いしかわシティカレッジ [P15に関連記事](#)

双方向遠隔授業システム [P15に関連記事](#)

学長研究奨励費 [P9に関連記事](#)

進路相談 [P13に関連記事](#)

就職支援室の
キャリアカウンセラー [P13に関連記事](#)

就職ガイダンス

合同企業説明会

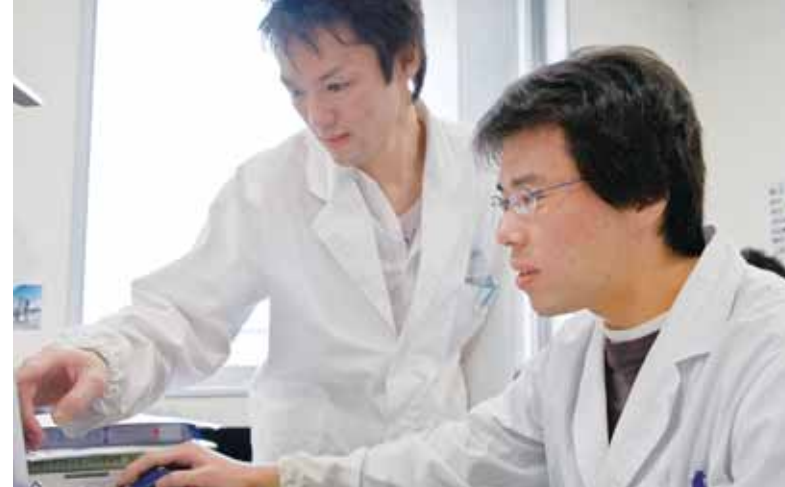
教員採用試験対策講座

公務員試験対策講座 [P12に関連記事](#)

卒業

【就職】社会へ羽ばたく学生は就職支援室がサポート!

【進学】さらに専門を追求したい学生は大学院へ。5つの研究科(人間社会環境研究科,教育学研究科,法務研究科(法科大学院),自然科学研究科,医学系研究科)が整備されています。



特集 | 学生生活のあらゆる場면을バックアップ!

新生・金沢大学の学生支援

一人暮らしや新しい友達、専門的な授業。新入生にとって、新鮮で刺激的な大学生活の始まりです。しかし、環境の変化によって、疑問や戸惑いを抱くこともあるでしょう。居場所や目標を見出せず、悩みを抱えている学生もいるでしょう。そこで、金沢大学は、入学時には学習や生活に、2年生からは進路選択や就職活動にと、学生の状況に応じた総合的な支援を展開しています。2008年4月、金沢大学は「3学域・16学類」へと移行し、より柔軟で自在な学びが可能になりました。同時に、学生が安心して学び、生活することのできる環境をさらに充実させています。



Contents

新生・金沢大学の学生支援

[P8-9](#) 学習支援 — 「自学自習」を形づくる

[P10-11](#) 生活支援 — 健康な心と体を育む

[P12-13](#) 就職支援 — 自分らしいキャリアをデザインする

[P14-15](#) 金大生のギモンを解決!
学生支援 Q&A

ちょっとした疑問を気軽に相談！ なんでも相談室—よるまっし—



履修の仕方や転学類、留学、就職、人間関係など、悩みや疑問を抱えたときに気軽に相談できる場所が「なんでも相談室」。教員に加え、現役学生が身近な立場で相談にのります。発足した2001年度の利用者は年間およそ120人でしたが、2007年度には4月だけで700人超と、年々増加しています。毎年4月、新入生向けに終日対応している履修相談が人気のようです。

相談員の坂本翔司さん(法学部3年)に、相談室の様子をお聞きしました。

これまでに、どんな相談を受けましたか？

最も多いのは、履修に関するものです。「履修登録はどうやればいいのか?」「卒業要件に『必修』や『選択必修』とあるけれど、どの授業をどれくらい履修すればいいのか?」など、新入生にとっては手引きがあっても分からないことばかり。一緒にシラバスなどを見ながらアドバイスします。ほかには「新しいサークルを作るにはどうすればいいか?」という相談もありました。「たいしたことじゃないけれど、ちょっと聞いてみたい」という疑問は職員の方よりも聞きやすいようです。

相談員になったきっかけは?

サークルの先輩が相談員だったこともあり、「なんでも相談室」をよく利用していました。勉強のことからプライベートなことまで、いろいろな悩みを聞いてもらえてすごく助かったのが、その恩返しをしていきたいと思ったのです。

利用者にとってのメリットは?

相談員が学生なので、お互いに近い目線で話せることですね。先輩の体験談を聞くことも参考になります。

相談員になってよかったことは?

誰かの力になれたということです。「ありがとうございました」と言われると本当にうれしい! どういう説明をすれば相手に伝わるのかを考えながら話すことは難しいですが、いろいろな学生と話せるのが楽しいです。

新入生に一言お願いします。

最初は分からないことばかりだと思います。いつでも気軽に相談に来てください!

なんでも相談室—よるまっし—

◇日時 月曜～金曜 10:30～17:00
◇場所 角間キャンパス 総合教育講義棟2階
◇問合せ TEL : (076) 264-5930
E-mail: soudan@sgkit.ge.kanazawa-u.ac.jp



※ ICT

Information and Communication Technologyの略で、IT (Information Technology) とほぼ同義。

実施。就職支援図書コーナーでは、最新の就職関連本が集められているので、学生に好評です。また、映画や音楽が楽しめるAVコーナーが充実しており、毎週のように利用する学生もいます。
前号のアカンサスポータルを使ったアンケート(2007年10月実施)において、金大生がキャンパス内で最も好きな場所を選んだのは図書館でした。試験期間中には、1722ある閲覧席(中央図書館、医学系分館、自然科学系図書館を合わせて)は満席になります。「静かで雰囲気がいい」と評判の図書館で、学生は自学自習に励んでいます。

ICTを活用した自学自習 —アカンサスポータル、ポータルフォリオシステム

現代社会では、生活のあらゆる場面でICT*が大きな役割を果たしています。本学では、2006年度入学生から携帯型パソコンを持つことを義務付け、キャンパス内に無線LANのアクセスポイントを設置し、授業や研究で活用しています。
学生は、まず「アカンサスポータル」という金大生のためのポータル(入口)にアクセスします。ここでは、学習や研究をはじめとする大学生活に必要な情報が網羅されている。そして、どんな授業があるのかを調べるために、E版シラバスを閲覧し、履修したい授業をパソコンから登録します。さらに、これらを使いこなすため、情報倫理やネットワークセキュリティの知識、基本ソフトの操作などを講義する「情報処理基礎」を全学生が受講します。
自学自習にもICTは有効です。「ポータルフォリオシステム」という学習の記録や履歴を見られるデー



タベースで、自分がこれまで、どんな課題にレポートを提出し、どう評価されたのかなどをいつでも振り返ることができるのです。また、自分の成績表も随時閲覧が可能。学習意欲の向上にも役立つことが期待されています。
さらに、教員と学生、学生と学生の間で新たなコミュニケーションの手段も生まれました。「アカンサスポータル」に付属したメッセージ機能や掲示板機能を使うと、授業についても行うことができます。
こうした取り組みは、学生が快適に自学自習を行う環境を整えるだけでなく、高度情報化社会に対応できる情報処理の基礎能力・総合能力を身につけるための実践の場にもなっています。

3年生までの優れた研究を支援 —学長研究奨励費

< 2007年度 学長研究奨励費 >

教育学部	●色弱者に配慮した学内掲示物について
法学部	●内灘町における少子化の把握と対策
医学部保健学科	●石川県における親育ちを支援するための子育て支援システムの検討—マイ保育制度を中心とした—
薬学部	●生物の大きさを決める遺伝子の探索
	など

「学長研究奨励費」は、学生の研究活動を奨励するため、研究に必要な物品等を援助するものです。卒業研究・論文は対象外のため、3年生(医学類、薬学類は5年生)までの学生が行う研究が対象となります。以前は、自分だけのテーマで行う研究は卒業年度で行うことが多かったのですが、これをきっかけに早い段階から自分なりの研究に取り組むことができるようになりました。2007年度は8学部すべてから15件が採択されています。



特集 新生・金沢大学の 学生支援

学習支援 — 「自学自習」を形づくる

金沢大学は、学生が主体的に学びを深められるように、様々なサポートを用意しています。大学憲章で宣言する「学生の個性と学ぶ権利を尊重し、自学自習を基本とする」を、実践するための取り組みを紹介します。

大学教育への スムーズな移行

新入生はまず「共通教育」で、大学の教育全体の基盤となる知識・技能及び教養を身につけ、専門を深め、社会へ羽ばたいていくための基礎と人間性を養います。

戸惑いがちな大学生活のスタートをサポートし、軌道に乗せるのが「導入科目」です。大学生活の基礎から教養や将来設計までの幅広いレクチャーを受ける「大学・社会生活論」と、自発的な学習能力の基礎を身につける「初學者ゼミ」がなっています。

「金沢」という街を知る「金沢学」も開講されています。能楽、加賀友禅、茶道、金箔、和太鼓といった伝統文化だけでなく、歴史、社会、自然などの観点からも考察していきます。受講生からは、「いろいろな先生方による多方面からの講義を聞いて、とても興味深かった」と好評を得ています。

自学自習の実践の場 — 図書館

大学図書館の蔵書の大半は専門書です。そのため、小説やベストセラーなどの身近な本を求めてやってくる新入生は、少なからず戸惑いを覚えるようです。

そこで金沢大学では、「共通教育」で図書館の利用方法や情報検索方法について講義しています。また、図書館に直接申し込みがあれば、その都度、利用説明会を開催しています。

通常の貸し出しに加え、年に数回、テーマを決めて図書の特集を

いつでもここで待っています！ ピア・サポート・ルーム

現役学生が相談に応じる「ピア・サポート・ルーム」。相談員であるピア・サポーターは、本学の専任カウンセラー・鈴木健一准教授の「カウンセリングの初歩—ピア・カウンセリングを学ぼう」というゼミを受講しています。「なんでも相談室」に比べると人間関係や就職など、友達には話づらいような相談が多いといえます。

3人のピア・サポーターに心構えなどを伺いました。

徳島 昭広さん (経済学部4年) 柿本 知衛さん (法学部卒業生) 小林 正法さん (文学部卒業生)



ピア・サポーターになったきっかけは？

小林 「カウンセリングの初歩」の授業で募集があり、興味があったので参加しました。

その授業で何を学びましたか？

柿本 相談者の話をどう聞き出せばいいかです。話にくい内容であっても、本当に話したいことを少しずつ聞いていきます。

徳島 カウンセラーとしての心構えが身につきました。「自分が」という姿勢ではなく、相談者が話したいことを導くように努めています。

ピア・サポート・ルームの存在意義は？

柿本 相談者の悩みをすべて解決することはできませんが、話すことで楽になってもらえるようです。「なんでも相談室」や個別カウンセラーなど、いろいろな相談場所があることが大事だと思います。

ピア・サポーターになってよかったことは？

柿本 相手の気持ちを思いながら話すという貴重な経験ができました。

徳島 人の話を聞くことの大切さに気づき、普段の生活でも活かされています。

小林 僕はもう卒業しますがピア・サポート・ルームが後輩達にずっと受け継がれてほしいです。

ピア・サポート・ルーム
◇日時 月曜～金曜 13:00～17:00 (学期休業中を除く)
◇場所 保健管理センター南分室内 (自然研前バス停止面)
◇問合せ E-mail: peer@ad.kanazawa-u.ac.jp



アカンサス・セミナー
「香料の基礎知識と香りの効果」

自分にも社会にも幸せをもたらすためには、どんな力を身につければいいのでしょうか。このプログラムでは、「自己管理能力」「コミュニケーション能力」「他者援助精神」の3つであると考えています。

若く健康なときにはあまり意識しませんが、学習や研究、日々の生活の充実には、身体と心が健康であることが必要です。健康を自分で管理する能力を身につけることは、生涯を通して必ず役に立ちます。そこで、必修科目「大学・社会生活論」の1コマ「健康論」をより充実させます。対面授業に加えて、繰り返し学習できるeラーニング教材も提供。「健康とは？」「定期健康診断は何のために？」などを考え、学びます。

学生にコミュニケーションを促すための環境づくりも行います。2008年度から、角間、宝町・鶴間キャンパス間にシャトルバスを



運行、それぞれのキャンパスにコミュニケーション・プレイスを設置。学生が活発に交流することで、視野を広げ、活動の場を広げるとをめざしています。

さらに、はじめに挙げた3つの能力を育成するため、学生が自由に何度でも参加できる7つの健康教育プログラムも実施します。



アカンサス・セミナー
「朝食ちゃんと食べてますか？
～簡単朝食を試食してみよう～」

学生支援GP

「心と体の育成による成長支援プログラム—
—社会に幸せをもたらす生活の知恵を持った学生の育成—」



特集 新生・金沢大学の 学生支援

生活支援— 健康な心と体を育む

充実した学生生活を送るために、学生の皆さんには、心身ともに健康であってほしい。そのような願いのもと、金沢大学では、学生が病気やケガをしたときや、悩み・不安を抱えたときに、いつでもサポートできる環境を整えています。

学生の健康を見守る —保健管理センター—

保健管理センターは、その名の通り、学生の保健管理に関する専門的業務を行います。角間キャンパス本部棟に本センター、自然科学本館に南分室、宝町・鶴間キャンパスに宝町分室が設置されています。

風邪をひいたり、体調がすぐれなかつたり、実験などで薬品が身体に付着したといった、病気やケガの診察に常時対応。附属病院の医師(内科、整形外科、産婦人科、精神科)が曜日ごとに、看護師は常駐しているので安心です。また、本学独自の保険「金沢大学学生健康保険」で、病気やケガの際に医療費の一部が給付されます。

毎年4月には、院生を含めて約1万5000人を対象に、定期健康診断を実施。医師による問診や胸部X線検査のほか、新入生と他大からの編入生に対しては、麻疹などの感染症対策として抗体検査を行っています。2007年5月に全国の大学で麻疹が流行した際には、先進的な取り組みとしてマスメディアで全国に紹介されました。健康診断の結果は、証明書として無料で発行され、就職活動などに利用されています。

また、臨床心理士が専任カウンセラーとして常駐し、人間関係や、学業や進路に関する悩みなど学生の様々な相談にのっています。

2007年からは、こうした取り組みをさらに発展させ、「すべての学生が自己にも社会にも幸せをもたらす生活の知恵を身につける教育プログラム」を構築するため、学生支援GP※が始まっています。

4 自分を見つめるプログラム

臨床心理士がファシリテーターとなり、自分と向き合う作業をグループワークで行います。自分を見つめるだけでなく、他者への関心、他者との関わり、広い視野を持つことを促進していきます。

5 アカンサス・セミナー

自由な雰囲気の中で、講師を囲んで、コミュニケーションする催しです。

6 救急講習会

AEDの使用法、熱中症対策、救急蘇生法などを実習します。

7 アカンサス・ インターンシップ

教育活動と課外活動を融合させた実践の場として学内で行うインターンシップです。

「自己管理能力」
「コミュニケーション能力」
「他者援助精神」の
3つの能力を育成する
**7つの
健康教育
プログラム**

1 健康診断

結果をWebでいつでも見られるようにし、医師と看護師から個別指導を受ける機会を設けます。

2 食育プログラム

管理栄養士による食や健康に関する講義や調理実習を行います。

3 運動プログラム

生活習慣病予防やリラクゼーションなどを目的に、アスリートやスポーツジムのトレーナーによる講義や簡単なエクササイズを行います。

※ 学生支援GP

文部科学省が学生の視点に立った独自の工夫や努力により特段の効果が期待される取り組みを含む優れたプログラムに対し、その内容を広く社会に情報提供するとともに、財政支援を行うもの。

あらゆる面から就職活動をサポート 就職支援室

毎年数多くの学生が就職支援室を利用し、希望の企業や官公庁に就職を果たしています。今回はその中から2人の先輩にインタビュー。喜びの声と就職活動のアドバイスを語ってもらいました。

卒業生にインタビュー

大手都市銀行勤務
岡部 南海子さん(経済学部卒業)
公務員(国税専門官)
岩井 勇樹さん(理学部卒業)



就職支援室を利用し、一番助かったことは何ですか？

岡部 エントリーシートの添削や、模擬面接です。納得いくまでとことん付き合ってくださいました。

岩井 自己分析です。客観的に自分はどんな人間なのかということを知ることができました。

後輩にアドバイスは？

岡部 時間のある学生時代に、興味の範囲をどんどん広げておくことです。視野の広い人間は魅力的ですよ。

岩井 サークルにしる、アルバイトにしる、やろうと決めたことは一生懸命やることです。その経験が後々になって生きてきます。

お二人のこれからの夢は？

岡部 何年後かにニューヨークのウォール街で金融の仕事をする予定です。

岩井 国税局査察部で仕事をして、敏腕査察官になることです。

就職支援室のスタッフから学生へメッセージ

企業が学生に求める能力。それは、就職活動を行う一時期だけでなく、大学生活全体を通して育んでいくもの。豊かな経験を意識的に積み重ねることによって身につけていくのです。

「大学時代に一番力を入れたことは何ですか？」

この質問に学生が胸を張って答えられること。それは、就職活動の成功につながるのももちろん、金沢大学でのキャンパスライフが輝いていたことの証明でもあるのです。

就職支援室ホームページ <http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/work/>



様々な職業からたったひとつ、自分のやりたい仕事を見つける。その作業に加え、エントリーシートや自己分析、業界・職種研究など、就職活動には「初めてがいろいろか」として「何から手をつけようか」として「不安や悩みも尽きません。」

就職支援室では、そんな学生を力強くサポート。年間を通して様々なガイダンスが開催され、エントリーシートの添削や、模擬面接はスタッフが常時対応してくれま。週に2日はキャリアカウンセラーも在室し、就職に関するあらゆる疑問の解決をお手伝いします。

就職活動を多方面から支援 ——就職支援室——

●就職ガイダンス開催

「業種別の業界研究」「就職情報サイト活用」「エントリーシートの書き方」など多彩な内容で開催中

●エントリーシート添削・模擬面接

●インターンシップ先紹介

●求人情報・就職関連資料閲覧など

学生の「やりたいこと」「できること」を一緒に探し、自信と能力を引き出しながら、学生自身の手でキャリアを作っていくよう支援します！



就職支援室は1年生から利用可能です！

就職支援室のキャリアカウンセラー

古田土 暢子さん

キャリア開発トレーナー / CDA(キャリアデベロップメントアドバイザー)

民間放送のアナウンサーを経て、1994年に研修講師として独立。企業・公的機関などでマナー及びコミュニケーションなどのビジネス研修を担当する一方、産業カウンセラー、CDAの資格を取得し、大学生や転職者を対象としたセミナー及びキャリアカウンセリングも行う。

キャリアカウンセリング(個別相談)

◇日時 火曜・木曜 13:00～17:00
※要予約。相談時間は1人30分程度
◇場所 就職支援室(学生会館3F)
◇予約先 就職支援室 TEL: (076)264-6190

国家公務員採用試験合格者数

2006年度
II種(行政):国公立大学中1位

2007年度
II種(行政):国公立大学中1位

II種(技術系):国公立大学中1位



公務員をめざす金大生を一人でも多くお手伝いしたいと思います。「なりたい自分」に向かって前進しましょう！

金沢大学生協同組合
公務員試験対策講座担当
おけもと ひろかず
楠本 宏利さん

CDA(キャリアデベロップメントアドバイザー)

入学時から未来を見つめるキャリア形成プログラム

21世紀を生きるためのキャリアプラン！ 2008年度の講師陣

本講義では業界の第一線で活躍する方々を講師に迎え、職業意識の確立と自己理解を深めます。

大塚 昌明	社会福祉法人順明会 理事長
斎藤 直	財団法人石川県産業創出支援機構 副理事長
鈴木善志男	ひたちなか商工会議所 副会頭
高瀬 政明	ライオンパワー株式会社 代表取締役
田所 創	経済産業省産業技術環境局基準認証課 基準認証振興室 室長
辻本 誠	UCC上島珈琲株式会社 取締役 常務執行役員
徳野 光宏	株式会社北陸銀行金沢支店 取締役 専務執行役員
中村 功	株式会社エヌティシードリームマックス 代表取締役会長
広瀬 幸雄	自然科学研究科特任教授
前田 利祐	社団法人霞会館 理事
真野 響子	女優
宮川 昌江	株式会社シーピーユー 代表取締役社長
宮地 治夫	広島化成株式会社 代表取締役社長
森 俊彦	日本銀行金沢支店 支店長

(敬称略・50音順)

1年前期から履修できます！

新入生が学ぶ「共通教育」には、大学の学びへスムーズに移行するための科目のほか、人間形成や将来設計をテーマに、学生のキャリア意識を育てる科目があります。早い段階から将来を意識し、目的を持った学びや自己開発を行うことで、キャンパスライフの充実と、将来に対する大きな展望が生まれてきます。

●人間形成や将来設計をテーマとする科目

「21世紀を生きるためのキャリアプランニング」「アントレプレナー学概論」「アントレプレナーシップ(起業家精神)の育成」「働くってどういうこと」「ブレイン・ターニング」「教師入門」「ベンチャービジネス論」

将来を視野に、自分を磨こう！
——共通教育——

公務員試験に強い 金沢大学

本学の学生と卒業生を対象とした公務員試験対策講座を、生協とタイアップして開講。プロの講師による授業を、講義後や夏休みに、通い入れた大学の教室で受講できるのが大きな魅力です。

講座のほかに「公務員就職ガイダンス」「学内官庁説明会」を開催し、公務員の仕事内容の紹介、必要な心構えについての情報を提供しています。

●公務員試験対策講座

4/15と5/8にガイダンスを開催。詳しくは大学生協ホームページ(<http://www.kincai-coop.or.jp/>)、または金大生協同組合館購買相談カウンターまで。

私たちが一人ひとりの就職活動を応援します！

就職支援室のスタッフ



主な就職ガイダンス

12月 就職活動準備
●1、2年生向け就職対策講座

5月 就職活動本番
●インターンシップ入門ガイダンス

7月 5月
●留学生就職ガイダンス I
●マスコミ業界就職対策セミナー
●文系・理系就職ガイダンス
●インターンシップ事前研修会

9月
●製薬系就職ガイダンス
●ゼロから始める就職活動

10月
●就職サイトの活用方法と直前対策(文・理)



2007年度業界・企業研究会

11月
●留学生就職ガイダンス II
●職務適性テスト
●業界・職種研究ガイダンス
●就職勉強会(12月まで計3回)
●教員採用試験の現状と対策
●採用担当者から見た就職活動(製造業・金融業界)

12月
●東海6社によるキャリアアップセミナー
●石川県教員採用試験の実情・合格者体験発表
●各企業OB・OG懇談会開始
●公務員試験全般について

12月
●国家公務員任用制度及び募集内容
●地方公務員任用制度及び募集内容
●学内官庁説明会開始
●航空業界就職対策セミナー
●実践エントリーシート講座 I
●就職活動本番ガイダンス

1月
●実践エントリーシート講座 II
●面接対策講座
●模擬面接実践セミナー

2月
●260社以上が参加する文理系総合業界・企業研究会(5日間開催 全国版・北陸3県企業版)

5月
●面接・グループディスカッション練習会
●就職活動最終章！
●教員採用試験受験者対象個別・集団面接対策
●面接表の書き方・志望動機・自己PR添削
●保健学科対象就職ガイダンス
●面接・集団討論練習会(公務員)



OB・OG懇談会

※この他にも学生就職支援サークル主催の内定者就職活動体験報告会などがあります。随時、ホームページなどでお知らせしています。また、学域学類が独自で開催しているものもあります。



8 角間ランチョンセミナーってどんなもの?

昼食をとりながら講演を聴くという、これまでの大学にはない気軽な雰囲気でのミニ講座です。内容は、学習上のちょっとしたアドバイスや、専門的なテーマの入門講座、学生によるコンサートなどです。

お問合せ
 大学教育開発・支援センター(総合教育1号館)
 TEL : (076) 264-5837
 E-mail: info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp
 URL : http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm

10 大学院はありますか?

すべての学類と連結する5つの研究科(人間社会環境研究科・教育学研究科・法務研究科・自然科学研究科・医学系研究科)が大学院に整備されています。理系では約6割以上の卒業生が本学や他大学の大学院に進学しています。金沢大学大学院にも、学域生と同様に、授業料の免除や奨学金などの制度があります。

困ったときはこの一冊! 『きいつけまっし』

入学時に配布される、安全で快適な学生生活のための金沢大学オリジナルの参考書です。犯罪や事故を未然に防ぐための注意点や、実際に遭遇してしまった際の対応について、詳しく書かれていますので参考にしてください。



WEB版 : http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/campus/kousei/ki-tuke/index.html

9 金沢大学で取れる資格は?

学校教育学類では教育教員免許状の取得が、医学類・薬学類・保健学類では国家試験受験資格の取得が卒業要件となっています。このほかにも学類によって様々な資格を取得できますが、その方法は大きく分けると次の二種類に分かれます。

- A** 開講されている所定の授業科目を修得することによって取得できる
- B** その学類・コース・専修を卒業することで取得できる

さらに、その二種類の中でも、

- ① 資格それ自体が得られる場合
- ② 資格を得るための受験資格あるいは受験科目の一部免除が得られる場合

とに分かれます。

また、多くの学生・院生が自ら目標を設定し、弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士、情報処理技術者、旅行業務取扱主任者、TOEIC等の資格取得のため努力しています。

A 所定の科目を修得すると取得できる

- 1 資格を得られる
- 2 受験資格または一部免除が得られる

- ・認定心理士
- ・社会福祉士
- ・学芸員
- ・公認スポーツ指導者
- ・環境再生医初級級 など
- ・電気通信主任技術者 など

B 学類・コースを卒業すると取得できる

- 1 資格を得られる
- 2 受験資格または一部免除が得られる

- ・毒物劇物取扱責任者
- ・甲種危険物取扱者
- ・技術士補
- ・1級土木施工管理技士
- ・測量士補 など
- ・1級建築士 など

※諸条件は各資格により異なります

お問合せ
 学生部就職支援室(学生会館3階)
 TEL : (076) 264-5265
 E-mail: syusidou@ad.kanazawa-u.ac.jp
 URL : http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/work/

6 TOEIC, TOEFLの受験サポートはあるの?

1 授業でサポート!

「共通教育科目」の「英語」には、TOEIC, TOEFLに関連した教材を扱う授業やネイティブ教員による英会話などがあります。また、海外の大学で開講される語学研修と本学での事前・事後学習を組み合わせた集中講義もあります。

2 教材でサポート!

外国語教育研究センターでは、TOEIC, TOEFL, 仏検などの検定試験対策教材をはじめ、リスニングのためのCD、異文化理解に関する書籍など、約1,200点の教材貸し出しを行っています。また、自宅からインターネットを通じて学習することができるeラーニング教材(Net academy)があり、登録すれば誰でも利用可能です。

3 受験料割引でサポート!

金沢大学生協の組合員であれば、TOEIC公開テストを通常より1割ほど安い6,000円で受験することができます。さらに生協では、団体特別受験制度であるCollege TOEICを実施しています。受験料が公開テストより4割ほど安く、スコアが2週間ほどで届きます。TOEFLについては、団体受験のためのTOEFL-ITPも行っています。

お問合せ
 外国語教育研究センター(総合教育1号館)
 TEL : (076) 264-5760
 E-mail: flijimu@sgkit.ge.kanazawa-u.ac.jp
 URL : http://flijimu.ge.kanazawa-u.ac.jp/

7 他学類や他大学の授業を受けられる?

1 副専攻

主専攻に加えて、学類やコースの区分を超えて授業科目を履修し、系統的に一定の専門的知識を得ることができます。

2 双方向遠隔授業システム

北陸三県の他の国立大学と、講義の映像と音声を送受信する「双方向遠隔授業システム」が整備されています。富山大学、福井大学、北陸先端科学技術大学院大学の学生とともに同じ授業を受けることができます。

3 いしかわシティカレッジ、放送大学

単位互換制度によって、石川県内の諸大学が授業科目を提供する「いしかわシティカレッジ」(教室は金沢市中部)や放送大学の授業が履修できます。



「双方向遠隔授業システム」のマイクを使って他大学で講義する先生に質問

3 入学料や授業料の免除を受けるには?

1 学資負担者が死亡した場合

2 本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

入学料は入学前1年以内に、上記のような状況になり納入が困難である場合、免除を申し出た学生に対し、選考のうえ、全額または半額を免除することができます。

3 経済的理由

授業料については、上記1,2に該当しなくても経済的理由により納付が困難であり、かつ、学業成績が優秀であると認められる場合、申請があれば選考のうえ、全額または半額を免除することができます。

4 どんな奨学金制度があるの?

1 一般的なもの

- ・日本学生支援機構奨学金
学業成績が優秀で、経済的理由により学資を支払うことが困難な学生に学資を貸与しています。2007年度は、院生を含め3,552名が利用しました。
- ・石川県育英資金をはじめとする地方公共団体の奨学金
- ・民間育英団体の奨学金

2 金沢大学独自の奨学金制度

2008年度から創設されたアカンサス・スカラシップでは、同年度以降の入学生に対し、各学類で各学年1名または2名について、毎年学業成績により選考を行い、当該年度の授業料相当額を給付します。他の奨学金や、授業料免除制度と併用することができます。

Q3, Q4 についてのお問合せ
 学生部学務課学生支援係(角間キャンパス本部棟2F)
 TEL : (076) 264-5164
 E-mail: stsien1@ad.kanazawa-u.ac.jp



アメリカ・タフツ大学

“派遣留学”とは、「学生交流の覚書」を交わしている金沢大学の交流協定校に、先方の授業料を払わずに、12ヶ月以内の留学をすることです。協定校は全世界で92大学。そのうち47大学へ、派遣留学をすることができます。(2008年2月現在)

お問合せ
 学生部学務課留学生第一係(角間キャンパス本部棟2F)
 TEL : (076) 264-5190
 E-mail: ryukou@ad.kanazawa-u.ac.jp
 ※詳しくは、冊子「金沢大学生のための派遣留学の手引き」をご覧ください。学類の学務係または学務課留学生第一係に置いてあります。

5 派遣留学ってなに?

2 犯罪に巻き込まれたり事故にあったときは?

所属する学部・学類の学務係に連絡してください。もちろん緊急時は110番や119番に直接通報しても構いません。

大学ホームページのお問い合わせページをご参照ください。
 URL: http://www.kanazawa-u.ac.jp/inquiry/



金沢大学学生部

学生と大学を結ぶ
アカンサスポータルで
キャンパス内の交流を生む!

特集 新生・金沢大学の 学生支援

金大生のギモンを解決! 学生支援Q&A

金沢大学の学生支援は、学習や生活、進路など多岐にわたって用意されています。アカンサスポータル※を利用したアンケート結果をもとに、学生支援について、金大生のギモンにお答えします!アンケート期間: 2008年1月12日~31日 回答者153名
 ※アカンサスポータル: 金沢大学が提供する、電子掲示板やメッセージ機能を使った学生支援システム。

1 授業が難しいときはどうすればいいの?

1 オフィスアワーを利用
 授業ごとに担当教員が質問を受け付ける“オフィスアワー”を設定していますので、質問してください。

2 アドバイス教員制度を利用
 学生一人ひとりにアドバイス教員がついていますので、気軽に相談してください。





ペーパーバッグ



ノート



SHOJI Sayuri

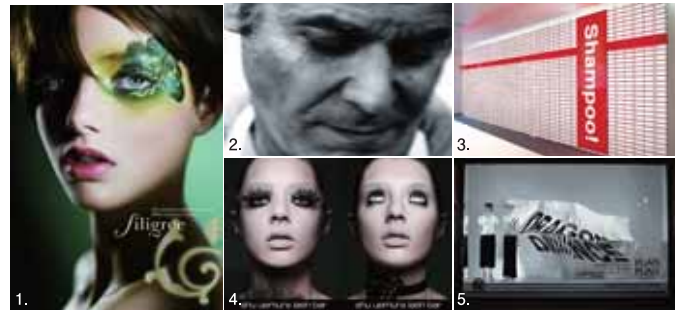
コンセプトは、クラシックかつモダンであること——
デザインを手がけた東海林小百合さんからのメッセージ

継 承すべき歴史や知的財産を、洗練された現代的な印象で伝える書体のデザイン。基本形はシンプルですが、オリジナルグッズなどのアプリケーションでは、スクールカラーのなす紺や3学域のカラーとともに、大胆に校章や欧文ロゴを配置し、日常の生活シーンでも親しめるデザイン展開となっています。

学 生の皆様、大学関係者各位、また地域コミュニティの皆様へ愛され続けてきた金沢大学が、「学都金沢の顔」として、新しいVisual Identityとともに、日本また世界に向けて、ますますの発展や挑戦を続けていかれることを心より願っております。

金 沢は伝統文化が薫る美しい城下町、という印象は持っていました。実際に市内とキャンパスを訪れてみて感じた、「力強く現代的」な息吹も同時に表現したいと思ったのです。

米 国生活が長く、主に化粧品やファッション分野でアートディレクターとして活動してきた私にとって、伝統ある金沢大学のロゴを制作するということは、光栄、かつチャレンジングな経験でした。



1.shu uemura Filigree 広告アートディレクション 2.paul meyers/ 写真作品 3.資生堂fino 発表会スペースデザイン 4.shu uemura Tokyo Lash Bar 広告アートディレクション 5.Issey Miyake Pleats Please ウィンドウディスプレイ

東海林小百合さん プロフィール
SHOJI Sayuri

1991年、渡米。ニューヨークに約12年滞在。カルバンクラインNY本社宣伝部デザイナー、広告代理店にてアートディレクターを務めた後、NYにてSayuri Studio, Inc.を設立。2002～2007年まで東京をベースに活動。NYアートディレクターズクラブ、IDマガジン等、米国の数々の主なデザイン賞を受賞。武蔵野美術大学、日本パッケージデザイン協会、宣伝会議特別講師、多摩美術大学の非常勤講師(2002～2004年)など。



6.shu uemura 化粧品箱デザイン 7.フェリシモ 通販 段ボール箱デザイン 8.Patricia Wexler 化粧品パッケージデザイン 9.キリンビバレッジ 生茶 パッケージ(2006年)

伝統を受け継いだ、 ビジュアル・アイデンティティ

新ロゴタイプとスクールカラーを使ったキャンパスグッズを試作



「3学域・16学類」のスタートにあわせて、本学では、新しいビジュアル・アイデンティティ※に基づいたイメージアップ戦略を進めています。2007年秋には、伝統と未来を融合させた新ロゴタイプとスクールカラーを制定。教職員、学生や同窓生など、より多くの人に親んでもらえるように、キャンパスグッズの試作も始まりました。教育研究の現場や、普段のキャンパスライフの中で、さりげなく存在感を放つキャンパスグッズは、人と人をつなぐ「コミュニケーションツール」となることが期待されています。

※ビジュアル・アイデンティティ (Visual Identity)
大学や企業が持つイメージや理念を視覚化し、マークやデザインとしたもの。



新作も続々登場!



クリアファイル

マグカップ



ミニ天綴ノート

金沢大学 KANAZAWA UNIVERSITY

金沢大学第九代 林勇二郎学長の足跡 果敢なる改革の8年半

国立大学法人化後の初代学長となった林勇二郎氏は、大学を取り巻く厳しい環境の中、卓越した先見性と実行力を発揮。学内から地域、国内、そして世界へと、幅広い視野で連携を築きながら、大学改革を推進しました。在任8年半に及んだ林学長の足跡をふりかえります。

林学長は、1999年秋に就任。直ちに「独立行政法人化問題検討委員会」を立ち上げ、国立大学の法人化の問題点を指摘した意見書を文部省(当時)に提出しました。指摘は7項目にわたり、条件が満たされなければ法人化はあり得ないとするもので、このような意見書の提出は金沢大学だけでした。2001年6月には、一年をかけた「金沢大学の課題と取組み―自己改革を目指して―」をまとめ、金沢大学の当面する具体的課題へ

の取り組みを開始しました。これは後の「金沢大学の改革―教育研究のグランドデザイン」や、法人化後の「中期目標・中期計画」の土台となっています。さらに2004年4月、法人化を機に「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」を基本とした「金沢大学憲章」を制定し、金沢大学のミッションを鮮明に打ち出しました。

教育研究

3学域・16学類の大改革

8年半の在任中に多くの改革を進めましたが、その目玉は何と言ってもこの4月からスタートした「学域・学類制」です。学部の壁を越えた3つの学域には、社会の要請に応えた専門分野が学類やコースとして整備され、学類に入學した学生には経過選択制や副専攻制など、学生が自らのキャリア形成に向けて主体的に学ぶ場が用意されています。

このように、学域・学類制は、「社会のための大学」「学生のための大学」を使命とする金沢大学が発信する革新的な改革として全国から注目されており、2008年度からは、国の予算の政策課題対応経費を受けて「FD推進と教育実施・支援モデル」と「教育改革を先導する運営モデル」の構築が進められる予定です。今日、教育再生会議等が声高に提言している「国立大学における学部の壁を越えた柔軟で効率的な教育指導体制の構築」などについては、金沢大学が6年以上前から林学長の下で検討されてきた構想そのものと言えます。大学院の組織改革については、医学系研究科と自然科学研究科

の部局化、人間社会環境研究科博士課程の区分制化、医学系研究科医科学専攻修士課程や法務研究科(法科大学院)の設置を推進し、金沢大学が教育を重視した研究大学となるうえで欠かせない基盤の整備に努めました。

センターについては、大学教育開発・支援センターの新設をはじめ自然計測応用研究センターや学際科学実験センターなど、既存のすべてのセンターを拡充改組し、併せて旧教養部からの分属教員の再整理と長年にわたる教員の部局間定員流用・全学流用を解消する英断を下しました。同時にセンターの役割を教育と研究、地域と国際、学内共同利用と社会に対する窓口化など特徴づけ、大学法人(企業)としての機能を整えたことは、地区事務部制の導入とともに評価されます。

教育を重視した研究大学の実現に向けて

法人化後、運営費交付金が毎年減額される中で、文科省の特別教育研究経費や各種G.P.経費、科学研究費補助金や寄附金などの外部からの競争的資金の獲得が重要になりました。とりわけ、グローバルCOEプログラムや科学技術振興調整費の獲得は、「教育重視の研究大学」としてのプレゼンスを高める上で極めて大切であるとして、フロントティアサイ

エンス機構(F.S.O)を発足させました。

F.S.Oを軸にした学長戦略経費と科学技術振興調整費によるテニユア・トラック特任教員を原資とする学内重点プログラムが動き出しており、これは金沢大学の総合性を引き出しつつ、教育研究の拠点形成と教員のテニユア化を図る起爆剤となるものとして、注目されます。

このような取組みの過程で、「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」と「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」の2件が「21世紀COEプログラム」に採択されています。

さらに、世界一の核断熱消磁冷却装置によるマイクログラム温度領域における量子臨界現象の研究、世界最速の原子間力顕微鏡によるナノメーター世界の状態に関する研究、肝臓を標的とした糖尿病等に関する研究、ウイーンのユタヤ人に関する研究(日本学士院賞受賞)、イタリア・フィレンツェのサンタ・クロチエ教会の壁画修復プロジェクトなど、金沢大学が世界に誇る多くの研究が開花しました。

このほか、科学研究費補助金や寄附金等の獲得額も増加し、2006年度には外国企業との共同研究実績額で1位にランクインするなど、外部資金の獲得においても健闘が目立った8年半と言えます。



「3学域構想」記者発表(2005年12月)



金沢大学入学宣誓式(2007年4月)

施設・環境の整備

キャンパスの整備

金沢大学の総合移転計画事業は文系の北地区、事務局などの中地区に続いて理工系の南地区の工事がほぼ完了し、角間キャンパスには近代的建物群が整然と林立し壮観です。南地区の自然科学本館に足を踏み入れると大空間のアカデミックホールが眼前に拡がり、階段を上りきったフロアには講義室とアカデミックプログラムナードが続きます。7階建の研究棟には実験室と学生の研究室が隣接し、これらはテクニカルポイドを挟んで教員の研究室につながり、訪れた人に「知を創造するアカデミアの風格」さえ感じさせます。

一方、宝町・鶴間キャンパスでは病院の再開発事業が進行中で、すでに新病棟、中央診療棟の建て替えと医学部研究棟の改修を終え、医学系の歴史と伝統に加えて高度先端医療を担う基盤が整備されました。

さらに、2008年度には角間南地区から太陽が丘・田上地区に抜ける道路が完成し、がん研究所の移転も始まることとなり、国の財政が逼迫する中で、角間・宝町・鶴間・附属学校の平和町など、全キャンパスで建物の整備が進んだことはまさに奇跡的なことと言えるでしょう。

社会活動

地域でのリーダーシップ

林学長は、大学が地域に根ざして活動するためには大学間の連携こそ重要であるとし、北陸地区国立大学連合の結成に尽力しました。法人化を前にして国立大学の再編統合の嵐が吹き荒れた2002年、北陸の7大学（現在は4大学）がそれぞれの特色と役割を維持しつつ共通の課題解決に向けて大同団結したもので、その後、双方向遠隔授業システムや「まちなかセミナー」の実施、「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」や共通教育科目の共同開発などへと発展しています。

石川県が主宰する「大学連携促進会議」を受けて、県内の19の高等教育機関が参加する「いしかわシテイカレッジ」を、さらにはそれに続く「大学コンソーシアム石川」をまとめる際にもリーダーシップを遺憾なく発揮しました。本コンソーシアムは、広坂の旧県庁舎や四高記念文化交流館を拠点とする「まちなかキャンパス構想」へと拡がっています。金沢子ども科学財団の初代理事長として子どもたちの理科教

就学環境の改善

このような教育研究のハード基盤の整備と並行して、様々な学生支援策も講じられました。

2002年、学生のニーズに応じて開設した金沢大学生協との共催による「公務員試験対策講座」の成果が特筆されます。国家公務員II種採用試験の合格者数は国立大学で常にトップクラスを占め、2007年度は「行政」では国立大学で2年連続1位、技術系でも1位(2006年度7位)に躍進しました。

また、地方バス会社との「金沢大学地区バストラIGGER協定」による「100円バス」の実現、学生・教職員の安全確保とキャンパスライフの充実を図る角間キャンパスへのコンビニエンスストア誘致など、就学環境の改善にも努力しました。さらに3学域・16学類の新生から、金沢大学独自の奨学金制度「アカンサス・スカラシップ」の導入を決断し、その財源確保に向けた「金沢大学基金」創設の地歩を築いた点も高く評価されます。



共通教育科目「21世紀を生きるためのキャリアプランII」(2006年11月)

育の振興に努めるほか、能登半島地震の復興、能登再生プログラム、地域の医療や教育振興、「日本海イノベーションフォーラム」などの事業にも積極的に関わり、地域に根ざした金沢大学の社会貢献活動を新たな段階へと発展させました。

全国的な活動

国立大学の法人化は比較的順調に推移し、いよいよ5年目に入りますが、その背景には林学長が国立大学協会の理事として主導した数々の事業があった、といったも過言ではありません。

戦略的に企画された各種研修事業は、国立大学法人のマネジメントを支援し、わずか数年で私学法人並みの経営にまで近づけたとされています。総合損害保険事業は、林学長自らが社員となる「国大協サービス」を立ち上げ、法人化以前の保障をカバーするまでになっています。

さらに、林学長はこれまでに7回の「大学改革シンポジウム」を適時に主宰し、そこでは、地方にこそ国立大学の存在理由があるとする一貫した姿勢を堅持して

林先生の思い出

河島進氏

北陸大学常任理事・前北陸大学学長

林先生とは、「大学コンソーシアム石川」の立ち上げ時からの縁で、楽しい仕事をさせていただきました。数々の思い出はありますが、いろいろなエピソードから「理系の先生にしては頭がやわらかい」という印象です。私は大学で文系の先生方と付き合い、「意外に頭がかたい」と感じているので、「理系の…」というあたりは語弊があるかもしれませんが、林先生は物事への感性、処理能力、理論構成などに優れ大変柔軟な対応ができる先生です。



佐々木毅氏

学習院大学教授・元国立大学協会会長・前東京大学総長

林先生との付き合いは、私が東京大学の総長になった2001年から続いています。国立大学協会(国大協)でもよく発言される方で、私も様々なお願いをしました。例えば法人化後、大学が加入する総合損害保険や、マネジメント研修などの実施委員長をお任せしたり、国大協総会の初の地方開催を金沢大学に頼んだり、難しい仕事をいろいろと引き受けていただきました。ハンサムで穏やか。とても人気があり、周囲には自然と人が集まりました。法人化を挟んで8年半学長を勤められ、知識も豊富。国大協のオピニオンリーダーであり知恵袋のような方です。



瀧本昭氏

金沢大学大学院自然科学研究科教授

先生は学長としての手腕もさることながら、研究において「複雑系のミクロ輸送現象論」の領域を開拓されたことが特筆されます。「第1回ミクロスケールの伝熱」の国際会議は金沢でスタートしましたが、今では熱科学の最も主要な分野として発展しています。先生が代表者として採択された科研費41件は、数年前までは金大でトップ。大学院の講義は、材料、生体宇宙などの最先端の伝熱で多様であり、教室はいつも一杯だったことが懐かしい。



諸橋輝雄氏

有限会社国大協サービス取締役副社長・元国立大学協会常務理事



林先生とは6年余り国立大学協会(国大協)でお付き合いいただいたのですが、国立大学が法人化されるに伴い、国大協も大きく変革した時期でありました。先生は準備委員会の頃から参加され、熱血漢で公平なお人柄をもって、改革を大きく牽引して下さいました。学長という立場だけではなく、国大協としての視点から、おかしいと思われたことは、(育ちの良さゆえに)どのような席でも発言される。しかし、いつも偏らず公正なおっしゃり、ご自分の発言に対して逃げずに責任を取られるので、最後は皆さんが納得されていました。先生のご尽力のお陰で、国大協は、政策に対する各国立大学の意見のとりまとめや、国の設置機関としての大学全体に関わる指針づくり、保険・研修といったスケールメリットを生かしたサービスなどの業務を行える業界団体へと発展いたしました。



サンタ・クロウチェ教会壁画修復プロジェクト中間報告会(2007年9月)

金沢大学の主な取組 [林学長8年半の年譜] 1999.9-2008.3

組織の設置

- 2000. 4 医学研究科を医学系研究科に改組,保健学専攻(博士前期課程)設置
- 2000. 9 「金沢大学サテライト・プラザ」開設
- 2001. 4 医学系研究科(博士課程)部局化
- 2001. 4 機器分析センター設置
- 2002. 4 医学系研究科保健学専攻(博士後期課程)設置,自然計測応用研究センター設置,薬学部の2学科を総合薬学科に改組
- 2003. 4 大学教育開発・支援センター,総合メディア基盤センター及び学際科学実験センター設置
- 2003. 7 知的財産本部設置
- 2004. 4 国立大学法人金沢大学設立,法務研究科(法科大学院)設置,自然科学研究科部局化,金沢大学東京事務所(KU@T)開設
- 2005. 4 医学系研究科医科学専攻修士課程設置,医学系研究科保健学専攻部局化
- 2005. 9 石川県寄附講座「地域医療学講座」設置協定締結
- 2006. 4 社会環境科学研究科を人間社会環境研究科(区分制博士課程)に改組,薬学部を薬学科(6年制)と創薬科学科(4年制)に改組,がん研究所を2部門2センターに改組
- 2007. 4 フロンティアサイエンス機構設置,環日本海域環境研究センター設置(自然計測応用研究センターと日本海域研究所の統合改組)
- 2007.10 子どものこころの発達研究センター設置
- 2008. 4 イノベーション創成センター設置(共同研究センター等の統合)

大学改革,国立大学法人化

- 1999.10 独立行政法人化問題検討委員会設置 → 2001. 4 報告書公表
- 2000. 3 「国立大学の独立行政法人化問題について」の意見書を文部省に提出
- 2000. 6 「金沢大学の基本理念・目標」制定
- 2000.12 キャンパス・インテリジェント化実施年次計画策定,金沢大学の大学院・学部の将来構想(グランドデザイン)を策定(学部教育を重視した研究志向の大学へ)
- 2001. 6 「金沢大学の課題と取組み-自己改革を目指して-」を公表
- 2001.10 大学改革推進室設置(～2004. 3)
- 2001.12 「金沢大学の改革-教育研究のグランドデザイン」承認(評議会)
- 2002. 1 「教育と研究を共に活性化させる総合大学院構想」承認(将来計画委員会)
- 2002. 4 法人化準備委員会設置
- 2003. 1 学部・学科の再編・統合の方針を決定(評議会)
- 2003. 4 新設を含む学内共同教育研究施設・共同利用センターの拡充整備と部局間定員借借を解消
- 2003.11 第1期中期目標・計画期間中の部局教員雇用上限数を設定
- 2004. 4 金沢大学憲章制定
- 2004. 6 「金沢大学の重点課題と取組」まとめ(以後,毎年更新)
- 2005. 3 評価室設置
- 2005. 4 学長秘書室の設置等組織改革
- 2005.12 「3学域構想」学内説明会と記者発表
- 2006. 4 事務組織の改革(3地区事務部制等)
- 2007. 4 ITC教育推進室設置,3学域・16学類設置計画,設置認可
- 2007. 7 「人間社会学域」創設記念シンポジウム開催,学域再編新聞広告(北國,中日,朝日),名古屋で金沢大学生によるトークセッションを初開催
- 2007. 6 第1回学域・学類改組に係る職員研修会
- 2007.10 「理工学域」創設記念シンポジウム開催
- 2007.11 第2回学域・学類改組に係る職員研修会
- 2008. 1 金沢大学講演会開催(佐々木毅前東大総長),基金設置に関する講演会開催
- 2008. 2 「医薬保健学域」設立記念市民講演会
- 2008. 4 3学域・16学類に改組

教育研究活動,評価など

- 2000. 9 大学基準協会による相互評価実施
- 2002.11 金沢大学先端研究フォーラム開催開始
- 2003. 2 北陸先端科学技術大学院大学との研究交流会を開始
- 2004. 6 サンタ・クローチェ教会(イタリア)の壁画修復・研究調査に関する協定書締結
- 2004.10 新潟県中越地震被災受験生への配慮方針策定
- 2004.11 地震・台風等で被災した在学生支援策決定(奨学金・授業料免除)
- 2005. 1 立教大学との共催セミナー「ビジネスクリエイティブ工房」開講
- 2005. 3 石川県教育委員会との連携に関する基本協定締結
- 2005. 7 自然科学研究科が石川高専と推薦入学協定締結,附属病院が病院機能評価の認定証取得
- 2005.10 立教大学・金沢大学の金沢シンポジウム開催
- 2005.12 「金沢大学開発研究促進助成制度(ギャップファンド)」創設
- 2006. 5 金沢大学学術情報リポジトリ運用指針策定
- 2006.12 第1回学部学生と学長との懇談会開催
- 2007. 2 金沢大学教員養成委員会規程,金沢大学教育学部附属学校研修員規程制定,平成18年度教員免許課程認定大学実地視察
- 2007. 3 「公的研究費の不正・不適切な執行実績に関する調査」実施,世界最速の原子間力顕微鏡の新技術について特許実施許諾契約を締結
- 2007. 4 テニユア・トラック制度発足,金沢大学教員評価大綱・実施要項策定,能登半島地震学術調査部会の第1回報告会を開催,能登半島地震パネル展;メカニズムと被害(金沢大学サテライト・プラザ,自然科学本館,石川県庁)
- 2007. 5 第1回留学生と学長との懇談会開催
- 2007. 6 第1回大学院生と学長との懇談会開催
- 2007. 9 2007年度国家公務員Ⅱ種採用試験合格者大幅増(行政:国公立大学中1位(2年連続),技術系:国公立大学中1位(昨年度7位),サンタ・クローチェ教会壁画修復プロジェクト中間報告会開催(イタリア・フィレンツェ))
- 2007.11 国際シンポジウム「壁画の修復と保存」開催,法科大学院認証評価に係る訪問調査
- 2007.12 大学機関別認証評価に係る訪問調査
- 2008. 1 「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」発足記念市民公開シンポジウム開催
- 2008. 3 能登半島地震学術調査部会の第2回報告会を開催「金沢大学基金」創設

地域連携,産学連携

- 2001. 3 「金沢子ども科学財団」設立
- 2001. 7 「共同研究センター協力会」設立
- 2002. 5 「金沢大学地域貢献推進室」設置
- 2002. 8 文部科学省「地域貢献特別支援事業費」採択
- 2002.10 (有)金沢大学TLO(KUTLO)設立
- 2002.12 「北陸地区国立大学連合」結成
- 2003. 3 地域貢献推進大学シンポジウム開催
- 2003. 6 「いしかわシティカレッジに関する包括協定」調印
- 2005.10 日本学術会議(第20期)会員就任,小松市・共同研究センター・日本政策投資銀行協定締結,自然科学研究科と小松製作所との産学連携推進協定締結
- 2006. 4 「大学コンソーシアム石川」設立,北國新聞社との「金沢学」推進事業開始,北陸地区国立大学連合「双方向遠隔授業システム」運用開始
- 2006. 6 北國新聞社との健康支援事業開始
- 2006.10 2005年度外国企業との共同研究実績(金額)で全大学中1位に
- 2007. 7 全国知事会が「国大協」の要請に応じて地域に貢献する国立大学法人の運営費交付金について関係方面に要望していくことを決議,北國新聞社との日本海イノベーションフォーラム事業開始

キャンパス・施設整備

- 2000. 9 角間第Ⅱ期キャンパス総合研究棟建設着工
- 2001. 3 教育学部附属養護学校校舎改修・体育館竣工
- 2001. 6 医学部附属病院病棟竣工
- 2002. 3 医学系研究科保健学専攻棟竣工
- 2002.11 インキュベーション施設竣工
- 2004. 1 自然科学総合研究棟Ⅰ,Ⅳ竣工(2004. 4移転)
- 2004. 2 環境保全センター竣工,VBL・共通実験棟1竣工
- 2004.10 VBL開所式
- 2004.12 医学部附属病院新中央診療棟竣工
- 2005. 1 自然科学総合研究棟Ⅱ,自然科学系図書館棟(中部建築賞受賞)(PFI事業)竣工
- 2005. 3 創立五十周年記念館「角間の里」(金沢都市美文化賞受賞)竣工
- 2005. 5 自然科学棟完成式典挙行
- 2005. 8 自然科学総合研究棟Ⅴ竣工
- 2006. 3 医学部B棟・十全講堂・解剖実習棟竣工
- 2006.10 医学部A棟竣工
- 2007. 3 教育学部附属高等学校校舎・体育館改修竣工
- 2007. 5 医学部C棟竣工
- 2007. 6 角間キャンパス屋外緑化(植樹)事業本格開始
- 2008. 1 医学部F棟・教育棟・G棟(標本教育棟)竣工
- 2008. 3 総合研究棟Ⅵ(大講義室)竣工
- 2008. 4 がん研究所研究棟(角間)建設費予算化(2008年度予算)

21世紀COE・各種GP採択,競争的資金獲得

- 2002.10 21世紀COEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」
- 2004. 7 21世紀COEプログラム「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」
- 2004. 9 「法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム」,「海外先進教育研究実践支援プログラム」10件,「現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)」2件,高速原子間力顕微鏡の開発がJSTの戦略的創造研究推進事業に
- 2005. 8 「派遣型高度人材育成協同プラン」
- 2006. 4 「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進教育実践支援」,「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進教育実践支援」(4人)
- 2006. 7 「魅力ある大学院教育イニシアティブ(大学院GP)」,「資質の高い教員養成推進プログラム(教員養成GP)」
- 2006. 8 「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム(医療人養成GP)」
- 2006. 9 「新興・再興感染症研究拠点形成プログラム」に関する「海外拠点を活用した新規研究課題」(ハanoiにおける薬剤耐性HIVの現状及び推移)
- 2007. 4 「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進教育実践支援」,「大学教育の国際化推進プログラム(海外先進教育研究実践支援)海外先進教育実践支援」(7人)
- 2007. 5 科学技術振興調整費「能登里山マイスター養成プログラム」,「新領域創成をめざす若手研究者育成特任制度」2件
- 2007. 7 「がんプロフェッショナル養成プラン」
- 2007. 8 科学技術振興機構 戦略的創造研究推進事業(さきがけタイプ)2件,「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム(学生支援GP)」
- 2007. 9 「大学院教育改革支援プログラム(大学院GP)」2件「プロジェクト研究を通じた自立的研究者養成」,「大学連合による計算科学の最先端人材育成」(神戸大学,九州大学,愛媛大学,金沢大学)

大学間交流協定の締結など

- 1999.10 レーゲンスブルク大学(ドイツ)
- 2000. 3 ロイヤル・メルボルン工科大学(オーストラリア),グリフィス大学(オーストラリア),アシュート大学(エジプト)
- 2000. 4 モンクット王工科大学トンブリ校(タイ)
- 2000. 8 北京工業大学(中国),ヘルシンキ工科大学(フィンランド),国立台湾師範大学(台湾),ルブリン工科大学(ポーランド),スロバキア工科大学(スロバキア)
- 2000. 9 釜山国立大学校(韓国)
- 2000.11 ロシア科学アカデミー極東支部(ロシア)
- 2001. 3 大連大学(中国)
- 2002. 3 「金沢大学国際交流後援会」設立
- 2003. 3 四川大学(中国)
- 2003.10 大連理工大学(中国)
- 2004. 3 南京大学(中国)
- 2005.10 韓国地質資源研究院(韓国)
- 2007. 1 国立釜慶大学校(韓国),延辺大学(中国)
- 2008. 1 チェンマイ大学(タイ)
- 2008. 3 バンドン工科大学(インドネシア)

その他の制度改革

- 2000. 3 ロゴマーク制定
- 2000. 4 新任教員説明会を初開催
- 2000.10 学長表彰制度導入
- 2000.12 「校章」「校旗」に関する規程制定,「男女共同参画」促進方針策定
- 2001. 4 「重点化経費」等学内予算の競争的配分開始
- 2004. 4 金沢大学特別整備事業費創設
- 2004.10 日々雇用看護師を常勤化
- 2004.12 「金沢大学における情報提供等に関するガイドライン」制定
- 2005. 7 非常勤講師等の委託に関する規程の制定
- 2005.12 「夏季一斉休業」制度導入決定
- 2005.12 報道対応マニュアル制定
- 2006. 1 専門業務型裁量労働制導入,入試手当新設
- 2006. 2 金沢バストリガー協定書締結,学生懲戒規程制定
- 2006. 4 トリガー協定による100円バス運行開始
- 2006. 8 金沢大学同窓会連絡協議会設立,角間地区にコンビニエンスストア誘致・開店
- 2006. 9 事務職員の学内からの登用試験開始,職員給与明細書がオンライン配付に
- 2006. 9 「金沢大学環境報告書2006」公表
- 2006.10 四高開学120年祭関連行事共催・協賛
- 2006.11 公開講座で功績のあった教員を表彰(全国初),第1回アカンサス駅伝大会開催(林学長杯)
- 2007. 3 公益通報者保護規程制定
- 2007. 6 新ロゴタイプ制定
- 2007. 7 障害者雇用促進「Challenged通信」創刊,金沢大学の携帯電話サイト開設
- 2007.11 第1回ホームカミングデー実施
- 2008. 4 新奨学金制度(アカンサス・スカラシップ)発足



輪島市黒島公民館で看護師の資格を持った学生らが、健康調査・保健指導を行った



輪島市黒島公民館で看護師の資格を持った学生らが、健康調査・保健指導を行った

能登半島地震 調査・研究レポート③

金沢大学が総力を挙げて取り組む 能登半島地震

— 学術調査・研究の全貌 —

能登半島地震が発生して、1年が経過した。この間、金沢大学は、能登半島地震対策本部学術調査部会を組織し、26グループ、130名以上の教職員による学術調査を継続して行ってきた。

2008年3月8日には、12グループが研究成果を発表する報告会を開催し、多数の地域住民の参加があった。4月20日には輪島市でシンポジウムを開催し、報告とあわせて政策提言を行う予定である。さらに、調査研究の成果を全国に発信するため、報告書の作成を進めている。

将来に起こりうる地震被害の軽減と、被災地・能登半島の完全な復興に貢献するため、金沢大学による調査・研究は今後も継続していく。



輪島市門前町で調査を行っている「亜急性期健康障害予防班」、「生活・福祉・住居班」と表准教授をはじめとする研究グループの教員・学生たち

被災者の暮らしと健康を支える 自宅生活者への健康調査

能登半島地震被災後の自宅生活者の暮らしと健康の実態

2007年8月から2009年3月末まで、医学系研究科・表志津子准教授(専門は地域・環境保健看護学)、城戸照彦教授、大倉美佳助教、学生らとともに、輪島市黒島町において「自宅」で暮らし住民を対象に健康調査と保健指導を行っている。仮設住宅ばかりでなく、自宅で暮らす被災者も健康問題を抱えているのではないかと考えたのだ。

3月末まで、医学系研究科・表志津子准教授(専門は地域・環境保健看護学)、城戸照彦教授、大倉美佳助教、学生らとともに、輪島市黒島町において「自宅」で暮らし住民を対象に健康調査と保健指導を行っている。仮設住宅ばかりでなく、自宅で暮らす被災者も健康問題を抱えているのではないかと考えたのだ。

道路、橋、トンネル、水道、震災では、こうしたライフラインが崩壊し、住民の生活に影響をおよぼす。それらの一日も早い復旧のために、本学の土木建設工学の専門家たちは奔走した。

ライフラインの復旧に貢献 土木建設工学的貢献

災害調査ならびに過疎・超高齢化地域における復旧復興への土木建設工学的貢献

また、先生は厚生労働省健康局とともに中越沖地震後の新潟でも調査を実施した。その結果、能登とは異なり、最新の耐震継ぎ手を利用していた水道管には被害がなかったこと、貯水池に緊急遮断弁があったため素早い応急給水が可能だったことが判明した。



シンポジウム「能登半島地震を振り返る—地震に強い街づくりをめざして—」で発言する金沢大学土木建設工学の専門家たち

4/20	3/30	3/25	3/8	3/1~3	2/19	2/17	1/16	12/12-13	12/7	12/3	12/2	12/1-2	12/1	11/18	11/10-11	10/12	8/31	
○金沢大学能登半島地震学術調査部会が、輪島市でシンポジウムを開催。報告とともに政策提言を行う。併せて、パネル展示も実施	○能登半島地震発生から1年	○日本衛生学会において、表准教授が「能登半島地震被災後の自宅生活者の暮らしと健康の実態を、日比野由利助教(専門は公衆衛生学)が、能登半島地震からみた妊産婦への支援体制」を、神林講師が「能登半島地震被災後に仮設住宅で暮らす高齢者の実状と健康問題に対する対策」を報告	○金沢大学能登半島地震学術調査部会が、第2回報告会を金沢大学で開催。研究成果を発表	○中村裕之教授、神林康弘講師(ともに専門は公衆衛生学)ら「亜急性期健康障害予防班」と、井上英夫教授(専門は福祉政策論・社会保障法)ら「生活・福祉・住居班」が、輪島市門前町で調査を実施	○北浦教授が司会を務めた「福井地域地盤研究会」において、松本樹典教授、キティヨドム・パーサー、山本助教(ともに専門は基礎工学)が「盛土崩壊メカニズムと対策を、樹谷浩教授(専門は構造工学)が「落石」による被害を、池本助教が「地震動および地震観測記録」を、村田助教が「地盤宅地災害」を報告	○青木准教授と林紀代美准教授(専門は人文地理学)が金沢市中央消防署での自主防災組織・婦人防災クラブ合同研修会において「能登半島地震から学ぶ地域防災力の向上」を講演	○北浦教授をはじめとする工学部土木建設工学科の教員によるシンポジウム「能登半島地震を振り返る—地震に強い街づくりをめざして—」を金沢大学サテライト・プラザで開催	○「北淡活断層シンポジウム2008」において、宮島教授が能登半島地震による構造物被害を、青木准教授が能登半島地震発生時の住民行動と今後の津波防災への展望を報告	○宮島教授、村田助教が中国西安市で開催された「日本海地域における地盤災害軽減に関する国際シンポジウム」において、能登半島地震における地盤災害および建物被害の被害分析結果を報告	○宮島教授が団長を務める土木学会・地盤工学会の能登半島地震災害緊急調査団が報告書を発表。宮島教授、池本良子教授(専門は下水道工学)、平松良浩准教授(専門は地震学)、池本敬和助教(専門は地震工学)、村田助教(専門は地震防災工学)が執筆	○青木賢人准教授(専門は自然地理学)が「石川県五学会連合研究発表会」において、「能登半島地震による被害と復興—現地調査と漁業者に対するアンケート調査から—」を報告	○浅野秀重教授(専門は教育学)ら「社会教育班」が、日本公民館学会において「能登半島地震と公民館活動」について発表	○宇野文夫客員教授(専門は地域連携・メディア)ら「震災とメディア研究班」が、新潟県中越沖地震におけるメディアの動向調査を「NEW MEDIA」1月号に寄稿	○輪島市でシンポジウム「震災とセーフティネット—人間と地域復興の視点から—」を開催。大学院人間社会環境研究科の井口克郎さんが報告	○城戸照彦教授、表志津子准教授、大倉美佳助教(3名とも専門は地域・環境保健看護学)と学生・ボランティア11名が、輪島市黒島町で2回目の研究調査を実施。3/1・2には継続調査を実施	○北浦教授(専門は地震防災工学)が、能登空港ターミナルビルで開催された「能登里山マスター養成プログラム」のリスク管理講座において、「再度、能登に震災は来るのか」をテーマに講演	○宮島昌克教授(専門は地震工学)が団長を務めた厚生労働省健康局の能登半島地震水道施設被害等調査団が報告書を発表	○2007年8月12008年4月



1.旅の相棒となる長距離用自転車 2.仲間と食べる夕食も旅の楽しみの一つ 3.2007年春のチャリ旅では出雲大社を訪れた 4.速度や距離ではなく「旅すること」が目的。女子部員ものびのびとチャリ旅しています

人と人のふれあいを力に、 日本全国をチャリ旅 サイクリングクラブ

サイクリングクラブは日本中を「チャリ旅(=自転車旅行)」する。着替えや食料、簡単な修理道具などを積み込み、北は北海道から南は九州まで、全国どこへでも出かけて行く。

普段はキャンパス周辺や県内をサイクリング。体力をつけ、春休みと夏休みに50余名の部員たちは1週間かけて遠出する。メンバーで決めた目的地を集合場所とし、一人で、あるいはグループで、思い思いのルートで向かう。

「飛行機や電車と違って、チャリ旅は自由に寄り道を楽しめるんです」と、部長の山下翔太さん(工学部3年)。自身も温泉への

寄り道が大好きだ。そんな山下さんは、旅先での「人と人のふれあい」がチャリ旅最大の魅力だと感じている。

長距離用の自転車にまたがり旅をすると、行く先々で「どこから来たの?」「がんばって」と声がかかる。また、春のチャリ旅ではその土地のお寺に泊めてもらうことが部の伝統。大人数での来訪にもかかわらず、温かく迎えられると旅の疲れも癒されるのだそう。

人と人のふれあいを力もらい、ペダルをこいで旅を続ける。その先には、まだ見ぬ景色と新しい自分が待っている。

サイクリングクラブの活躍はここで!

● 2008年春のチャリ旅は宮崎県!
<http://kucc-ginrin.hp.infoseek.co.jp/>

サークル紹介

人馬一体のキャンパスライフ 馬術部

2009年に創部60周年を迎える馬術部。部員数15名、厩舎には11頭の馬がおり、馬場の広さは全国有数だ。その環境を生かし、2年連続で全日本学生馬術大会に出場している。入部時はほとんどのメンバーが初心者。馬の大きさに圧倒されながらも、いつしかその背にまたがり、馬場を駆け、障害を飛び越えるまでになる。

人三馬七。馬術の世界では馬の状態が競技の7割を決めると言われる。馬術部でも日々の世話はメンバーが行う。給餌は早朝6時から。数人が交替で厩舎に泊まりこみ、餌代も大部分をアルバイトで賄っている。苦労は多いが、馬への愛情が勝るのだそう。

部長の谷田太郎さん(経済学部4年)は「馬が自分に応えてくれた瞬間が今も忘れられない」と言う。名を呼ぶと来てくれる。その背に自分を乗せ、指示どおりに走り障害を飛んでくれる。馬と交わす言葉を越えたコミュニケーション。それが馬術の魅力なのだそう。

「馬と離れがたくなりますよね」。谷田さんは次回大会で引退するが、今後もOBとして関わっていくことを決めた。

人と馬との強い絆。それは、共に過ごすキャンパスライフから生まれるのだ。

馬術部の活躍はここで!

● 乗馬体験やってます!
<http://doratomo.ddo.jp/hakuteikai/>



右.馬との信頼関係は日々の世話から生まれる
左.馬上では自然と笑顔に



風をきって前進する ノってるサークル特集

現在、金沢大学には、文化系サークルが39、体育系サークルが41あり、2,500名以上の学生が所属しています。
http://www.adm.kanazawa-u.ac.jp/ad_gakusei/student/club/

どんな仕事をやるにも幅広い知識が必要

787は主翼を三菱重工業が製作し、最終的な組み立てをボーイング社が行う。空を飛ぶことに求められる精度や強度を出すため、飛行機の主翼は何万点もの部品から構成される。佐藤さんは、それらの組み立て手順を決めるプログラムを787用に改良するという、重要な工程を担っている。

就職時に航空機の製造部門を希望した佐藤さんだったが、配属されたのは産業機械の製造部門だった。技術者という職種は知識・技術を積み上げていく必要がある、一度配属されるとなかなか部署を移ることができない。そのため、佐藤さんの夢は潰れたかと思えた。

だが、787の主翼を三菱重工業で製造することになり、佐藤さんにもチャンスが巡ってきた。航空機部門で技術者の増員が図られたのだ。

「技術職では、専門のことだけをしていたらよいと思われがちですが、ものを作る以上は、流通や材料のコストについても知っていないければなりません。営業職でも、技術についても詳しくは、お客様により喜ばれる提案ができるようになります。良い仕事をするには、専門以外にも幅広い知識が必要ですよ」。

様々な知識を吸収し、自分を磨き続けてきた佐藤さん。十分な能力を発揮できることを認められ、念願だった航空機部門への転属が現実となった。

コミュニケーションは可能性を広げる重要な手段

大学時代、佐藤さんはボート部の合宿所で共同生活を送っていた。チーム全員で協力する競技に打ち込み、仲間と寝食を共にした、その経験が今の仕事に活かされているという。

「技術者といえども黙々と作業をしているだけではいけません。様々な部署や人と関わり、うまくコミュニケーションをとって、問題解決のアドバイスをもらったり、知識の幅を広げたりすることが必要なのです」。

知識や技術に加えて、コミュニケーション力も養うこと。それが自らを成長させてくれる人との出会いを生むのだ。

「大学時代の恩師や、会社で仕事の厳しさを教えてくれた上司がいなければ、今の自分はありませんでした」。

佐藤一郎さん プロフィール
1974年生まれ。大阪府出身。金沢大学工学部、大学院自然科学研究科博士前期課程修了。山崎光悦教授に師事。小さいころから外で体を動かして遊ぶことものづくりが好きだった。高校時代に始めたボートを、現在も週一回、クラブチームで楽しんでいる。航空機やロケットという夢のある機械の製造を志し、三菱重工業株式会社に入社。



Graduate Interview 卒業生インタビュー

三菱重工業株式会社
名古屋航空宇宙システム製作所

佐藤 一郎

SATO Ichiro

学生時代は知識を得るとともに、人間を磨き、そして、様々な出会いに恵まれる時期である。総合的な人間力を高めることによって、卒業後の可能性も大きく広がる。

「航空機の製造を夢見て三菱重工業株式会社に入社し、次世代旅客機ボーイング787(以下787)の開発に携わっている佐藤さんに話を伺った。」

大学時代ボート部の仲間たちと佐藤さん(左端)



卒業学部を超え、日本各地で交流が進む 金沢大学同窓会情報 Alumni association information

一生の友に巡り会い、生涯をかけてやりたいことを見つける、
人生において大きな意味を持つキャンパスライフ。
金沢大学ではその「大切な時間」にいつでも立ち返ることができる
多くの同窓会が活動しています。



在学生に「つるま同窓会便り」を紹介する関谷さん(右端)と角野さん(左端)。
現在同窓会会員数は1,752名

つるま同窓会

ユニークな企画で在学生を支援
医学部保健学科は1996年、医療技術短期大学部が改組され誕生しました。その同窓会である「つるま同窓会」は会員のほとんどが20〜30代と若さにあふれています。
「会員はもちろん、在学生、そして地域の方々とも楽しく交流できる同窓会をめざしています」。3年間にわたり会長を務めた関谷暁子さん(1期生)は様々な工夫で同窓会活動を盛り上げています。
例えば、つるま同窓会では多くの会員が働き盛り。思うように時間が取れない会員でも運営に関われるよう、企画立案はホームページの掲示板を使って行われます。評議員として運営に関わる角野忠昭さん(8期生)も「このシステムだと、提案も気軽にできます。自分の意見で同窓会を活性化できるのはいいですね」と言います。

また、キャンパス周辺の商店街など、地域との交流も活動の大切なテーマ。会員に「思い出の場所の今」を伝えるべく、「つるま同窓会便り」(ついで)Vol.4より地元商店街レポートをスタートさせました。
つるま同窓会が、今、最も力を入れているのが「在学生への支援活動」。8月に行われるオープンキャンパスへの後援をはじめ、国家試験に必要な証明写真代の一部補助や、卒業式の衣装に加えてウエディングドレスまで試着できる「卒業・新生活応援フェア」の開催など、個性的な企画で在学生を支援します。
在学中から同窓会に親しんでもらい、卒業後の入会への垣根を低くしたい。関谷さんは、まだ若い組織の行く先を見つめているのです。
思い出の場所を訪ね、母校で後輩と触れ合う。つるま同窓会は、これからも提供してまいります。



卒業・新生活応援フェアでは自分に合った卒業式の衣装が選べます。ウエディングドレスの試着も好評です

● つるま同窓会
<http://tsuruma.w3.kanazawa-u.ac.jp/index.htm>

活動報告

2008 01 ~ 02

1/8 第658回「北の都会」月例会を開催。

2/16 金沢工業会東海支部が名鉄ニューグランドホテルで講演会・懇親会を開催。

【演題】
「新聞から見た名古屋の元気」
【講師】
真能秀久氏(中日新聞経済部長)

2/24 教育学部同窓会がサテライト・プラザで代議員会を開催。



2/27 法・経・文同窓会富山支部が学長、学部長を招き同窓会を開催。

同窓生が待っています！
どうぞ、ご参加ください！

6/3	11/4	4/3
北の都会大会	12/5	「北の都会」月例会
		7/4
		8/4
		9/4
		10/3

同窓会の人的ネットワークを活用し、有意義な人生を

【金沢大学同窓会】

- 法・経・文同窓会 TEL(076)264-1667 (同窓会事務局)
- 教育学部同窓会 TEL(076)264-6196 (同窓会連絡協議会事務局気付)
- 理学部同窓会連絡 TEL(076)221-2061 (金沢子ども科学財団気付)
- 医学部十全同窓会 TEL(076)265-2131
- 医学部保健学科 つるま同窓会 TEL(076)265-2504
- 薬学同窓会 TEL(076)234-4411
- 金沢工業会 TEL(076)264-0482
- 四高同窓会 TEL(076)262-5464 (石川四高記念文化交流館内)

【金沢大学同窓会連絡協議会】

総合大学として、長い歴史と伝統を誇る金沢大学は、多方面で活躍する数多くの卒業生を輩出しています。そのため、同窓会での出会いや再会は、質の高い人的ネットワークを構築するまたとない機会となっています。
金沢大学同窓会連絡協議会では、卒業生の連携強化を目標として、同窓会への加入促進や各同窓会報の発行支援、行事の協力などの活動を行っています。

〔事務局〕金沢大学総務部
〒920-1192 石川県金沢市角間町
TEL:076-264-6196 FAX:076-234-4014 E-mail:now@kanazawa-u.ac.jp

● 卒業生向けホームページ
<http://www.kanazawa-u.ac.jp/internal/graduate/index.html>

DATA NOTE

交流協定 (2007)

11月 大学院医学系研究科が韓国全北大学医学部と部局間交流協定を締結

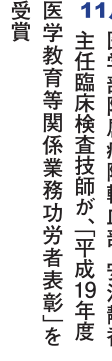
(2008)
1月 タイ・チェンマイ大学と大学間交流協定を締結

研究業績および受賞 (2007)

10月 大学院医学系研究科・山本博教授が、「日本糖尿病合併症学会 Expert Investigator Award」を受賞
「糖尿病血管合併症の発症と防止におけるAGE-RAGEの意義に関する分子生物学的研究」が評価されました。



11月 医学部附属病院輸血部・安江静香主任臨床検査技師が「平成19年度医学教育等関係業務功労者表彰」を受賞



山本博教授(中央)



松尾淳一准教授

大学院自然科学研究科・松尾淳一准教授が、「平成20年度日本薬学会奨励賞」を受賞
「硫黄―窒素結合を活用する有機合成反応の開発とその応用」についての研究が評価されました。



平尾敦教授

(2008)
3月 がん研究所・平尾敦教授が、「第4回(平成19年度)日本学術振興会賞」を受賞
「造血幹細胞維持メカニズムの解明」についての研究が評価されました。

12月 学際科学実験センター・西山智明助教らを中心とする国際研究グループが米科学雑誌「Scienceオンライン版」に論文を掲載
コケゲノムの遺伝子の詳細な機能解析によって、農林業的应用や地球環境対策への応用などが期待できます。

学長表彰 (2008.3)

論文等が優れていると認められる者

鳥 孝佑 医学部
第43回欧州糖尿病学会年次学術集会で、1題を筆頭発表者として、もう1題を共同発表者として口演発表。

森本雅憲 自然科学研究科
草野岳彦 工学部
2007年度精密工学会北陸信越支部学術講演会で、ベストプレゼンテーション賞を受賞。
※森本雅憲は他受賞多数

米山義広 自然科学研究科
2006年にセメントコンクリート論文集に掲載された論文に対して、セメント協会論文賞を受賞。

■ 本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる団体

合唱団 代表 近藤淳
第60回中部合唱コンクールで金賞を受賞。
フォーミュラ研究会
代表 中尾仁・元井博康
第3回全日本学生フォーミュラ大会で総合優勝、他入賞多数。

■ 本学の課外活動の振興に顕著な功績があったと認められる個人

佐藤多瑛子 教育学部
第49回北信越学生剣道優勝大会優勝、他入賞多数。
杉村典子 教育学部
第47回全国公立大学卓球大会ダブルス優勝、4年間にわたり他入賞多数。
山田 学 教育学部
第49回北信越学生剣道選手権大会優勝。



正木誠司 法学部
「なんでも相談室」で、学生の立場における無償ボランティアの相談担当者として、さまざまな相談に丁寧にかつ熱意を持って真摯に対応。

■ その他、表彰に価する行為等があったと認められる者

小林正法 文学部
柿本知衛 法学部
ピアサポートルームの設置と、順調な始動現在の運営に貢献。
吉田知代 医学系研究科
インドネシアにおける国際医療・研究協力活動に対し、臨床検査技師としての専門性と知見を生かし、現地住民対象の健診活動ならびに疫学調査の先頭に立って活動。

■ P9に関連記事

■ P11に関連記事

瀧谷 史 理学部
第48回北信越女子学生剣道選手権大会優勝、他入賞。
中村 勝 理学部
第81回北信越学生陸上競技対校選手権大会男子200m優勝。
島田恵利 医学部
19年度全日本女子ヨット選手権大会スナイプ級部門7位、他入賞。
藤田涼香 医学部
第49回北信越学生剣道選手権大会優勝、他入賞多数。
吉村 舞 教育学部
第81回北信越学生陸上競技対校選手権大会女子100m、200m、400mで3冠となる優勝、女子4x400mリレー優勝。
北川 巨太 経済学部
第49回大阪居合道大会最優秀演武賞、他入賞多数。
瀧澤勇介 工学部
ノートテイカー・パソコンノートテイカーとして聴覚障害学生の学習支援等に多大の貢献を行った。



金沢大学医学展実行委員会
代表 田中仁啓
「医学展」を15年ぶりに開催するため実行委員会を組織し、実行委員長として運営し、成功させた。また、この催しをおして医学部の存在を全国にアピールした。

平田つぐみ 医学部
第9回石川県バリアフリー社会推進賞で福祉用具部門最優秀賞を受賞。

NEWS & TOPICS 金大のいまがわかる

[ニュース&トピックス]

金沢大学のニュース&トピックスおよびイベント情報は、[金沢大学ホームページ](http://www.kanazawa-u.ac.jp/)でご覧いただけます。

<http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

December 12月

12/1 附属中学校の佐々木絢海さんが「内閣総理大臣賞」を受賞

全国中学生入権作文コンテスト中央大会で、全国84万1558編の中から最高賞に選ばれました。

12/1 雪かきボランティア協定を締結
今年度も学生たちが地域の雪かきを手伝います。

12/1~2 いしかわ金沢学冬コースを開催



12/5 2008年度も1000円バスを継続

旭町・金沢大学間のバス料金を1000円にする実証実験において目標利用者数を突破。2008年度の継続が決まりました。

February 2月

2/3 「医薬保健学域」創設記念市民公開講演会を開催

医薬保健学域の意義を明らかにするため、「真のトータルケアを求めて」をテーマに開催し、ノンフィクション作家・柳田邦男氏が講演しました。



2/4 派遣留学報告会を開催

15名の学生が派遣留学のための準備や派遣先の生活などを報告し、今後留学をする後輩の質問に答えました。



2/4 学生支援GPFフォーラムを開催

▶ P11に関連記事

12/10 附属小学校児童のアイデアが商品に

商品企画のプロセスを体験する授業で、児童が提案したアイデアを取り入れたペンケースが発売されました。

12/14 第13回岐阜シンポジウム「地方国立大学の挑戦をSCS※で配信

※Geo Collaboration System
衛星通信大学間ネットワーク

12/16 地産地消をテーマにした食育推進事業として「里山里海食堂」を珠洲市にオープン

12/16 ひらめき☆とぎめきサイエンスを開催

12/18 石川県に寄附講座の研究結果を報告

石川県の寄附により設置され、能登北部地域の医療体制のあり方について研究した「地域医療学講座（石川県）」の報告を行いました。



2/12~16 文理系総合業界・企業研究会を開催

県内外267社の採用担当者から、学生に直接説明がありました。



2/25 入学試験前期日程を実施

合格発表は3月7日、後期日程の入学試験は3月12日、合格発表は3月22日に行いました。

March 3月

3/8 学生リユース市を開催

卒業生が使っていた家具や電化製品などを新入生に安く提供しました。

3/8 能登半島地震学術調査部会の第2回報告会を開催

4月20日にはシンポジウムを輪島市内で予定しています。

3/18 金沢大学基金創設

▶ P24に関連記事

12/19 第1回金沢大学環境講演会を開催

学生・教職員約90人が環境についての理解を深めました。

12/26 特別支援教育についての講演会を実施

教育学部及び附属学校等から50名以上が参加し、特別支援教育の必要性・重要性についての意識を高めました。

January 1月

1/6 「北陸がんプロ」発足記念市民公開シンポジウムを開催

「北陸がんプロフェッショナル養成プログラム」は、北陸の5大学と15病院が協力し合い、どこにいても等しく高度な治療が受けられる体制を整備するものです。市民公開シンポジウムには約270人が参加しました。1月13日には市民公開講座「がんをもっと知ろう」2人に1人はがんの時代」を開催し、一般市民のほか、北陸3県の看護師、放射線技師等300人超が参加しました。

1/16 シンポジウム「能登半島地震を振り返る―地震に強い街づくりをめざして―」を開催

1/19~20 輪島市でシンポジウム「里山里山の生物多様性保全」能登半島にトキが舞う日をめざして」を開催

1/26 輪島市でシンポジウム「里山里山の生物多様性保全」能登半島にトキが舞う日をめざして」を開催

1/26 合唱団が定期演奏会を開催

今年度は全国から集まった卒団生約140人とともに歌声を響かせました。

1/27 雪だるままつりin角間の里／かなざわ雪ん子体験塾を開催



1/30 基金創設に向けて講演会を開催

学部生1,836名、専攻科・別科51名、大学院研究科修士と博士論文審査合格者777名に学位記・修了証書を授与しました

3/22 金沢大学学位記・修了証書授与式



3/6~14 教育学部附属学校卒業・卒園式



附属中学校 160名卒業



附属高等学校 123名卒業



附属特別支援学校 小学部2名、
中学部3名、高等部9名卒業



附属幼稚園 47名卒業



附属小学校 109名卒業